AI分野(1)ゲームとAI

リアルタイム ゲーム AI

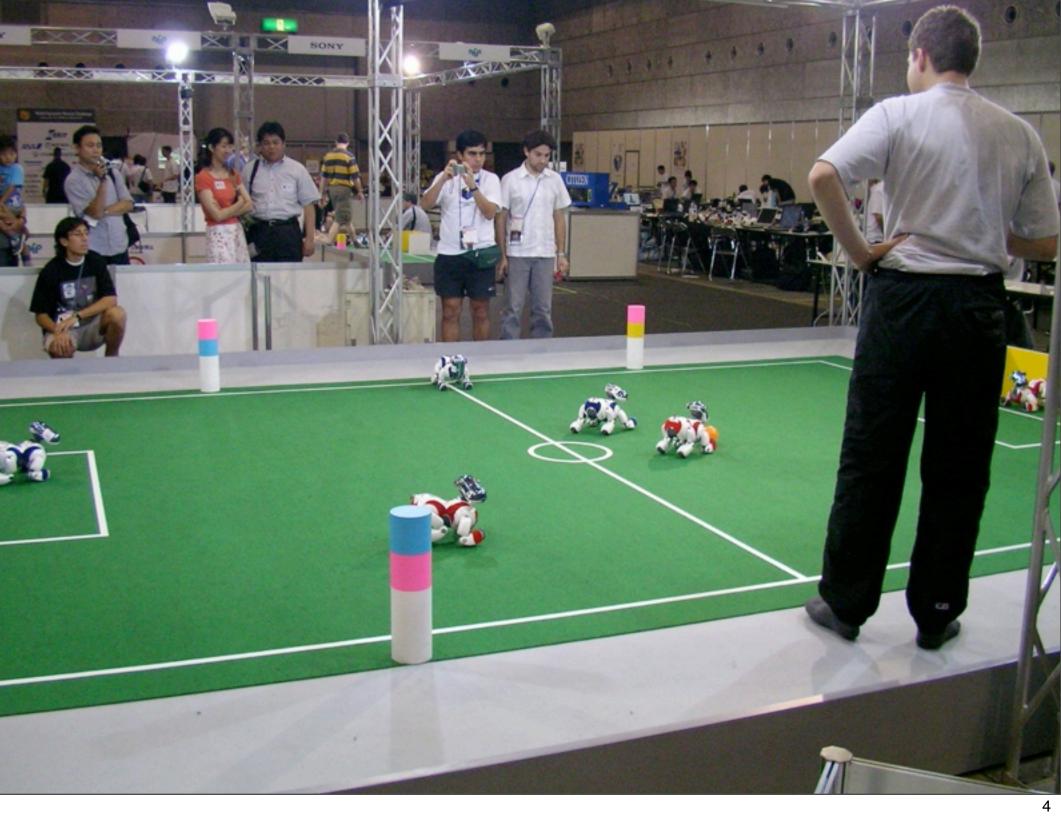




RoboCupサッカー







RoboCup 知的分散協調の

共通問題

マルチエージェントシステム

昨夜の懇親会

- マルチエージェント問題の例
- 全員整列…その全員の壁と声が敵!

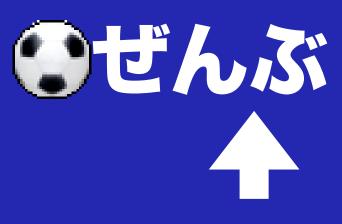
- 目視で確認 X
- 声の方向 X
- 周囲の人の向き(動的知識)
- 上座という常識(静的知識)

知識処理が必要

とりあえず



RoboCupで使われる AI技術とは



あらためて

自己紹介

西野順二



天才プログラマー 電気通信大学 システム工学科

趣味 プログラミング ジャグリング



実世界でも マルチエージェント

未踏ソフトウェア 天才プログラマー

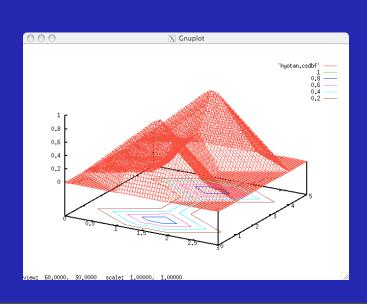


OZED バーチャルサッカー ロボットキット

デモ

OZEDの技術

- 多次元ファジィ推論 (このへんファジィ)
- 行動計画
- 状態推定
- 時間制御



RoboCupper 暦

- 1998年開発スタート
- 1999年国際大会初参加
- 2002年国際大会技術管理委員 (日本)
- 2003年国際組織委員(OC)
- 2002~2005日本大会運営委員
- ~現在日本大会運営協力

RoboCupp戦歴

- 1998年開発スタート
- 1999年国際大会 予選敗退
- 2000年 実験ヘテロチームOZ(AI学会賞)
- 2001年 人間参加システムOZRP (AI賞)
- 2004年 人間チームで日本大会3位
- 2007年 3Dリーグで日本大会2位
- 2008年 このへんファジィ歩行 (AI賞)

専門 システム科学 ファジィ理論

專門

- システム科学 東工大システム科学専攻
 - 制御理論・情報理論・ゲーム理論・人間工学
 - サイバネティクス->ロボティクス
- ファジィ理論
 - 知的情報処理
 - ♥ ソフトコンピューティング
 - **❷** ファジィ、ニューロ、確率推論、 GA(EC)

專門

● ノンセクションの20







RoboCupサッカー

ロボットのサッカーチーム 2050年 WCで人間チームに勝つ

人間に勝つ

全員なぎ倒す? -> 反則負け

- 人間に危害を加えず
- 知的に動いて勝つ

グランドチャレンジ

- ・ アポロ計画 1960 システム工学の発展
- コンピュータチェス 1997
 計算機科学の発展
- ・ ロボカップ 2050 知能ロボットの発展

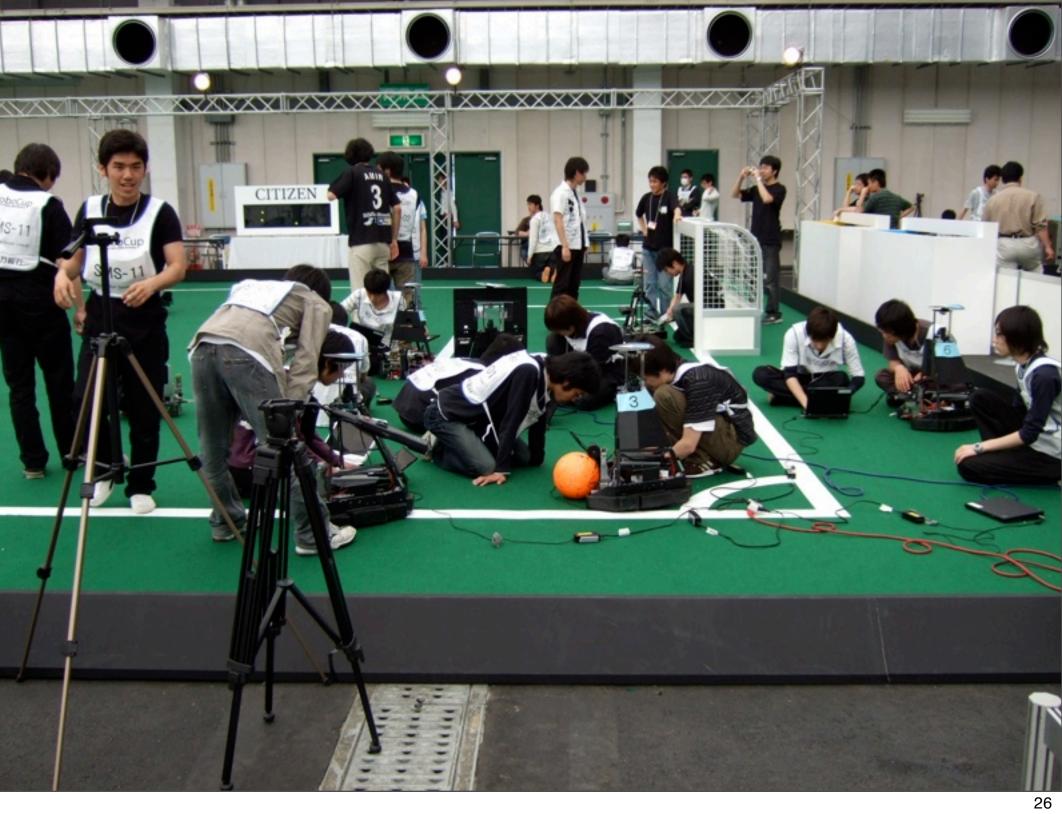
日常生活への大きな寄与

リーグ

- 実機リーグ
 - 🚱 ヒューマノイド、中型()、小型

- シミュレーションリーグ
 - ② 2D、3D、コーチ(終了)、 混合リアル

● 四足リーグ(終了)



サッカー以外

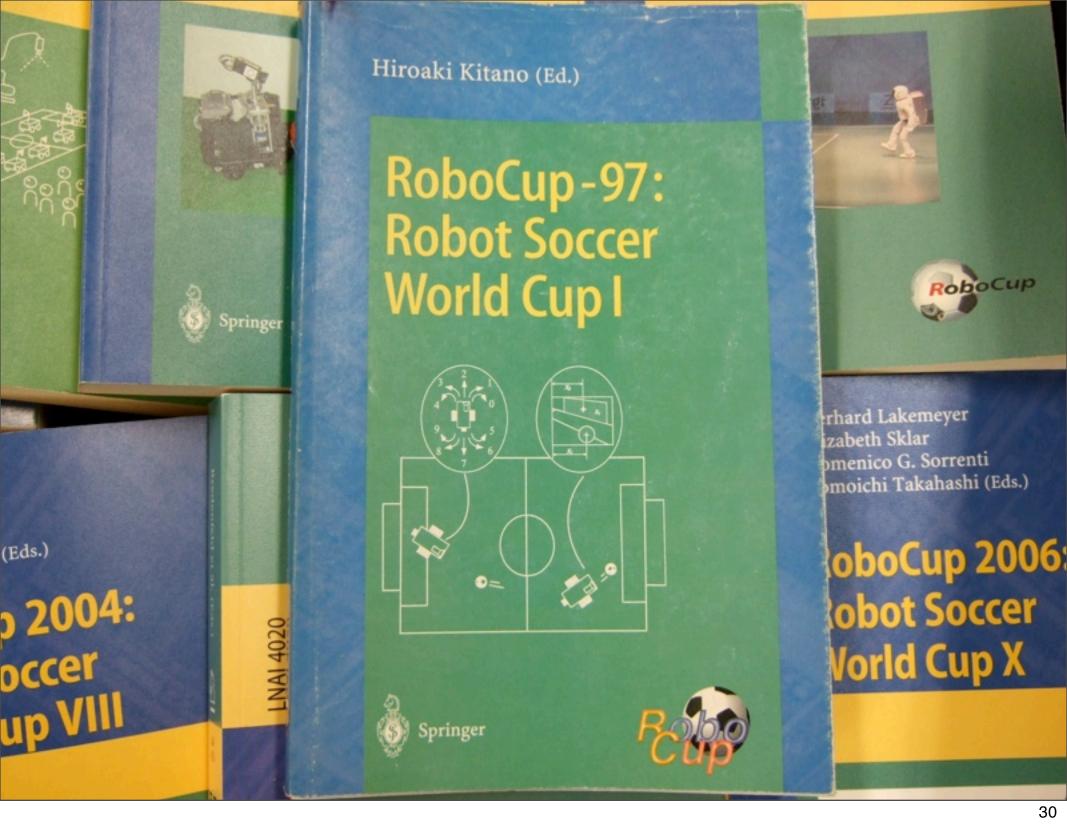
- RoboCup レスキュー 災害救助、知能協調ロボット
- RoboCup ジュニア チャレンジ
- RoboCup@ホーム 家庭用ロボット

RoboCupの課題

身体性の問題 開いた世界 計り知れない大きさ

「相手」という未知物体







シミュレーションリーグ

バーチャルロボットのサッカー

RoboCup:ロボットサッカー研究

8リーグ、1000名以上参加、観客10万人 シミュレーションリーグは、

■20ヵ国以上、70チーム、300名以上が参加



RoboCup 2002福岡大会

2005大阪、2006ドイツ、2007アメリカ、2008中国

もっとも地味なリーグ

もっとも進んだリーグ

シミュレーションリーグのメリット

● 故障しない

● 繰り返し実験できる -> 学習に有利

\varTheta 安い

ゲームでも同じ

シミュレーションリーグ

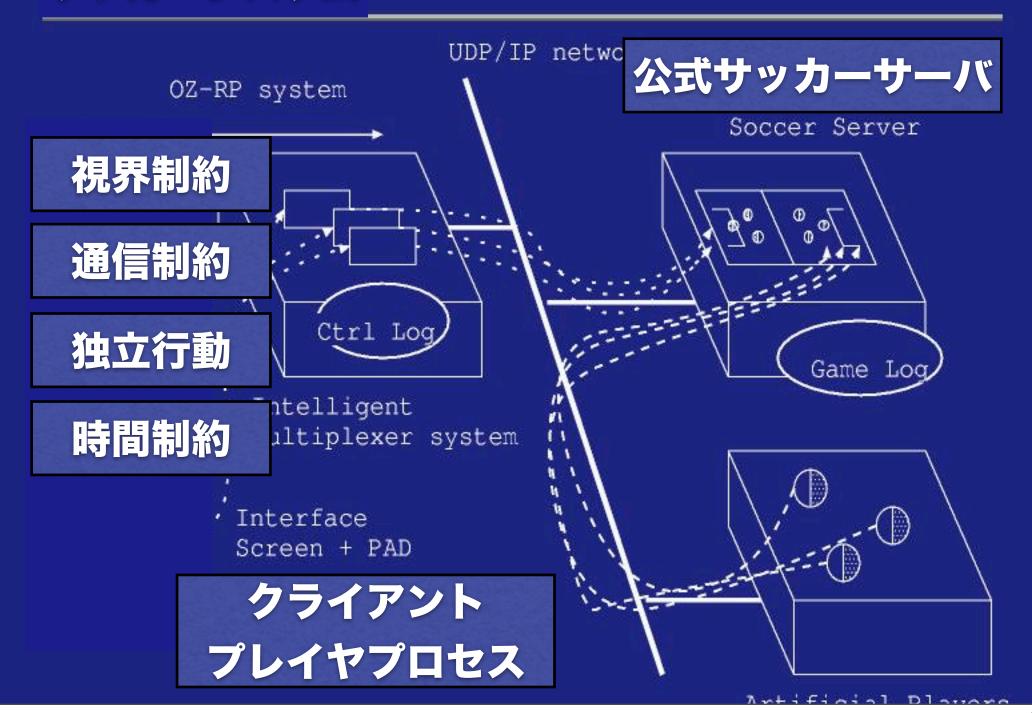
- 2D/3D
- バーチャルサッカー場
- ネットワークC/S接続
- (リアル) な多数の制約
- 22プレイヤ独立・疎結合・非統合
 - ボール込み46次元
- FIFA準拠

最近の結果

webか5

仕組み

サッカーシステム

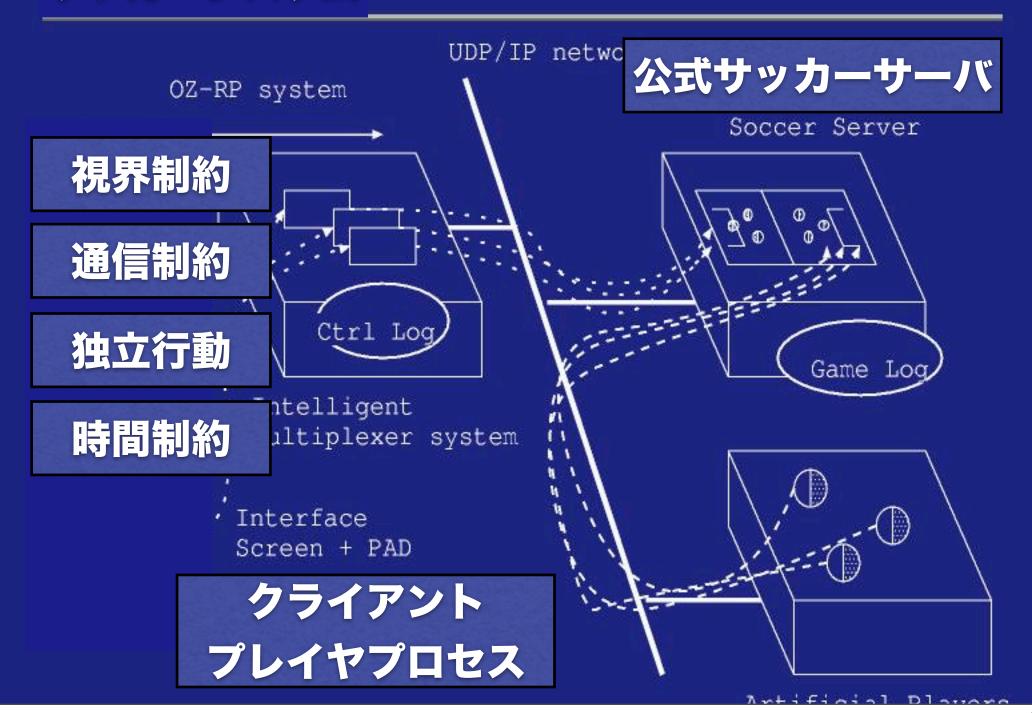




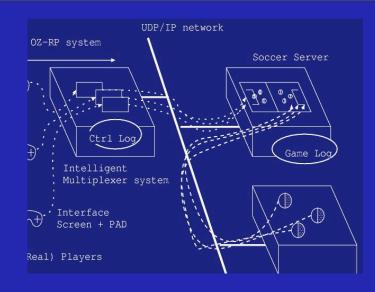




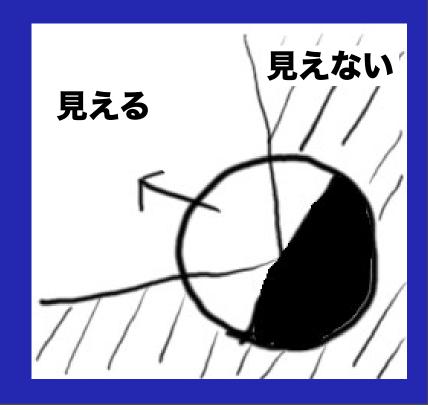
サッカーシステム



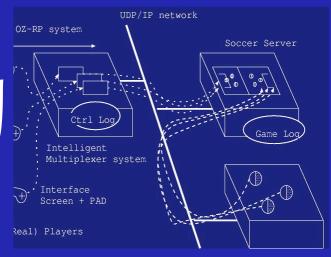
センサ制約



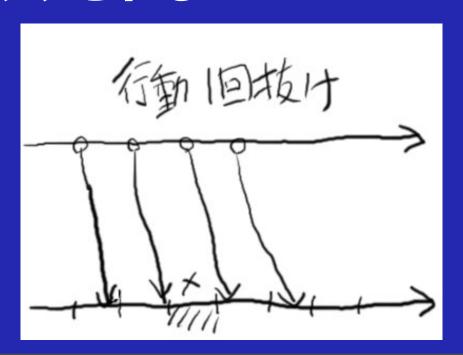
- 視界は各プレイヤローカル
- 遠いものは見えない
- 視角外は見えない
- プレイヤによって 見えているものが違う



リアルタイム制約

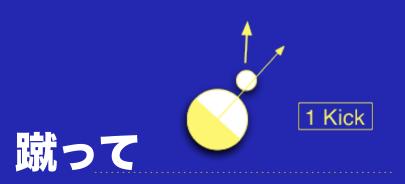


- サーバは実時間で進行
- 100ms以内に行動を送れないと スキップされる



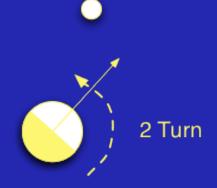
行動制約

- 前進、回転、キックのみ
- 「ドリブル」「マーク」などは各自で作る
- 加速度運動モデル 行き過ぎ戻すのに時間かかる



ドリブる

向いて



● 基本的な一つの行動も 複数の動きの集まり





プログラミングの負担大

繰り返す



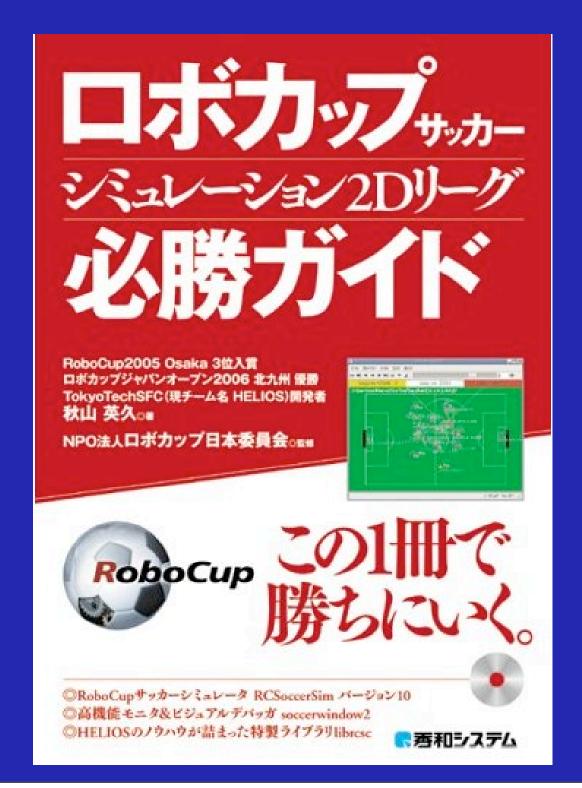
通信制約

- プレイヤ同士は、 サーバ上の「声」以外通信不可 (個別のソケット等は不可)
- 声は 10文字以内で、 遠方に届かず、 遠方に届かず、 近隣全員に聞こえる(敵にも)

参考図書

残念ながら現在絶版

再版.com

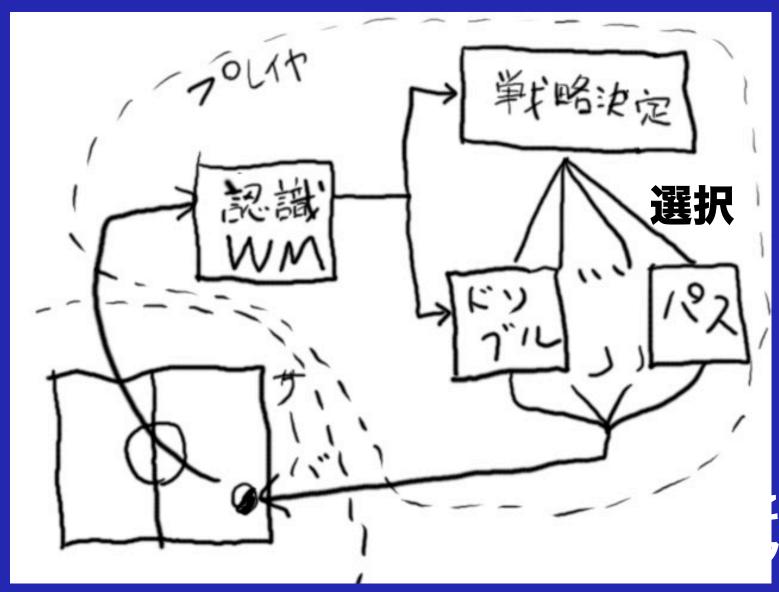


RoboCupでの AI技術

C++プレイヤソース UVAの

```
SoccerCommand BasicPlayer::kickBallCloseToBody(AngDeg ang, double dKickRatio)
            angBody = WM->getAgentGlobalBodyAngle();
 AngDeg
VecPosition posAgent = WM->predictAgentPos( 1, 0 );
                   = SS->getPlayerSize() +
 double
           dDist
                SS->getBallSize() +
                SS->getKickableMargin()*dKickRatio;
            angGlobal = VecPosition::normalizeAngle( angBody + ang );
 AngDeg
VecPosition posDesBall = posAgent + VecPosition( dDist, angGlobal, POLAR );
 if( fabs( posDesBall.getY() ) > PITCH WIDTH/2.0 |
   fabs(posDesBall.getX()) > PITCH LENGTH/2.0)
  Line lineBody = Line::makeLineFromPositionAndAngle( posAgent, angGlobal );
  Line lineSide(0,0,0);
  if( fabs( posDesBall.getY() ) > PITCH WIDTH/2.0 )
   lineSide = Line::makeLineFromPositionAndAngle(
      VecPosition( 0, sign(posDesBall.getY() )* PITCH WIDTH/2.0 ), 0 );
   lineSide = Line::makeLineFromPositionAndAngle(
   VecPosition( posIntersect.getDistanceTo( posAgent ) - 0.2,
           angGlobal, POLAR);
VecPosition vecDesired = posDesBall - WM->getBallPos();
VecPosition vecShoot = vecDesired - WM->getGlobalVelocity( OBJECT BALL );
           dPower = WM->getKickPowerForSpeed( vecShoot.getMagnitude(,,))
 double
            angActual = vecShoot.getDirection() - angBody;
 AngDeg
        angActual = VecPosition::normalizeAngle( angActual );
 if( dPower > SS->getMaxPower() && WM->getBallSpeed() > 0.1 )
```

プレイヤの基本構造

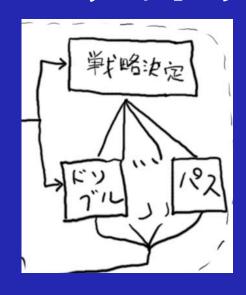


のへん ァジィ

チームワークのもと

- 各プレイヤの役割分担
- フォーメーションの作り込み (動的な) ポジション決め
- ② 役割に応じた行動
 「ディフェンダのドリブル」など





リアルタイムAI

- 固定動作型 (高速)
 - Decision tree (作り込み)
 - ルールベース、ファジィルール
- **探索型**
 - 行動の生成検査 ←

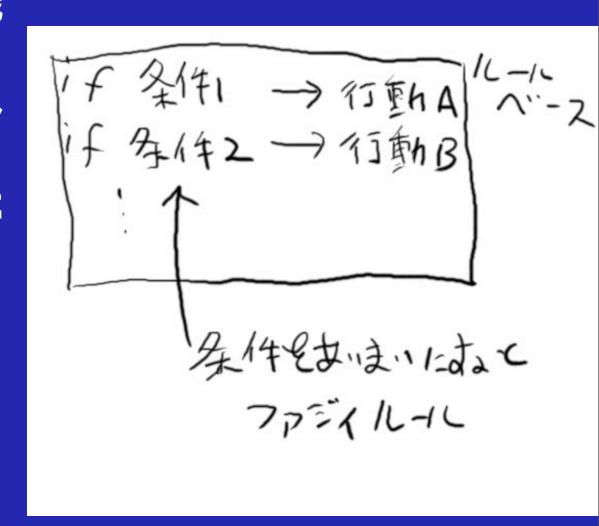
すべて

評価関数が必要

● 学習?

ルールベースプレイヤ

- 現在の状態を認識 (推定)
- 当てはまるルールを検索
- 複数ルールの調停
- 行動決定
- Decision tree も同じ



学習

● すべての枠組みの中で、 評価関数などの調整を学習で行う

- 強化学習 最近は多い -> Brainstormers
- **●** ニューラルネット ドリブルの獲得
- GA チームワークの獲得

強化学習

● 動物の調教

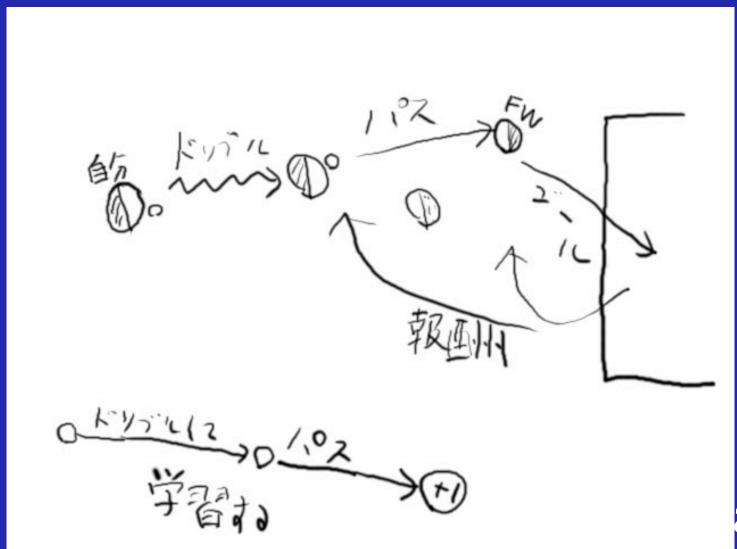
- 単純な目標 (評価が大雑把:エサ報酬)
- 複雑な手順 (アルゴリズムの発見ができる)

→ 状態遷移/価値関数

こんな状態のとき

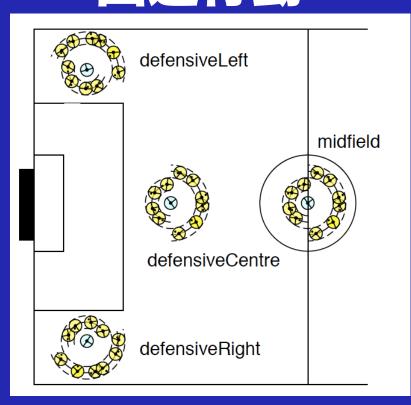
->こんなことするとあと良い

強化学習



Brainstormersの 強化学習

近接戦での 回避行動



Neurohassle TD

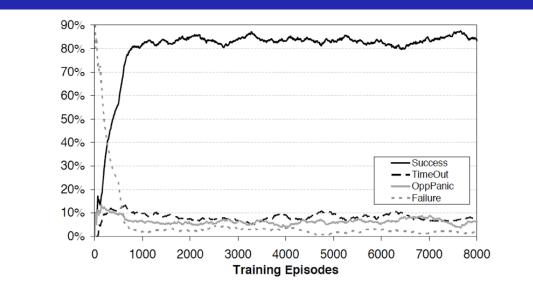


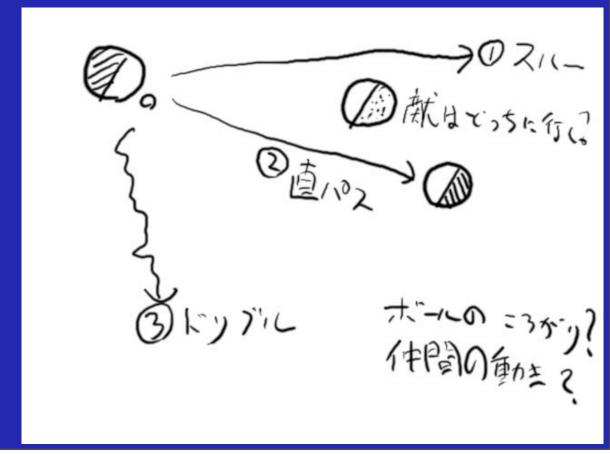
Fig. 3. Exemplary Learning Curve for Learning to Hassle (opponent during training: Wright Eagle, binary from RoboCup 2006)

探索型プレイヤ

- 計算機パワーを駆使
- 未来予測をしながら行動決定

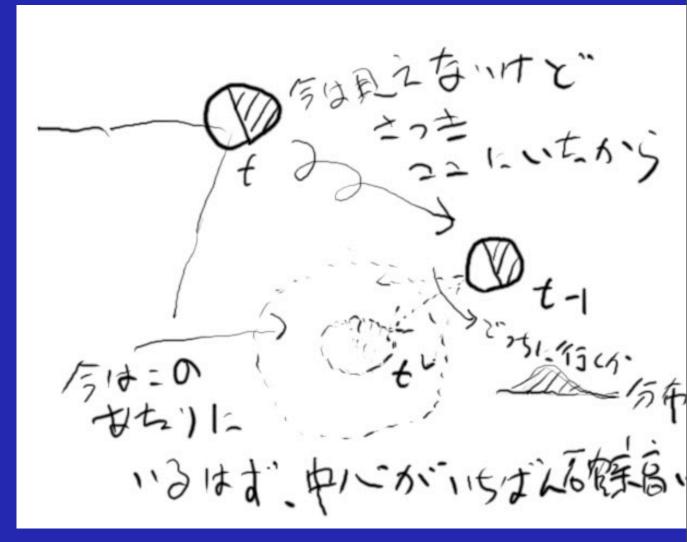
探索型プレイヤ

- ・「今」可能な 行動を列挙
- 内部モデルに よって行動結果 を<mark>推定</mark>
- 結果の評価
- 最良の行動を 選択実行
- 🌑 毎回大量の計算



状態認識·推定

- 生のセンサ 情報は誤差 と欠落だら け
- カルマン フィルタ(統 計的推定モ デル)



状態認識2

SOM:自己組織化マップ

- 「状態」は区切りなく無限
- 経験から状態の区分を会得する

「有利な状態」「チャンス」のひろがり

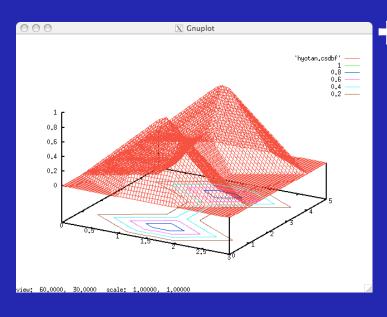
バーチャルロボットキット OZED

2005年度上期未踏ソフトウェア

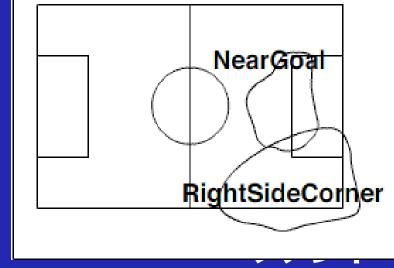
「このへんファジイ」

このへんファジィ

- 多次元による「正確」な表現
- 複雑システムの「本質的」な表現



サッカー では



対人間の実験 〇乙RRP

2050年よりまえに 人間が対戦してみた

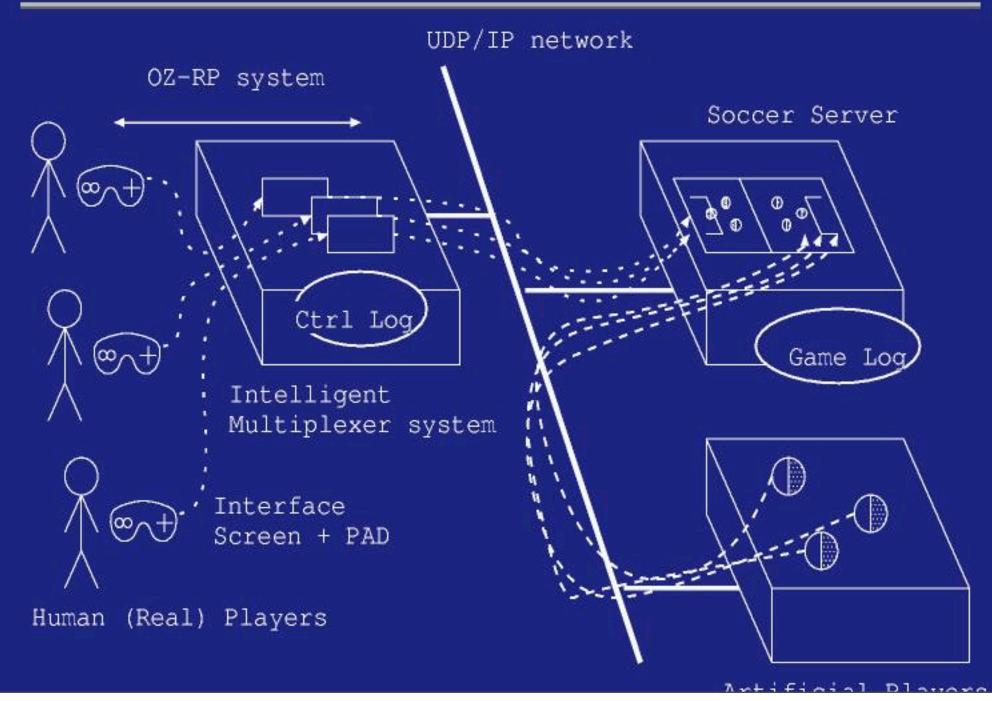
人間参戦システム OZ-RP

OZ-RPの目指すもの

OZ-RP = OZ by Real Players

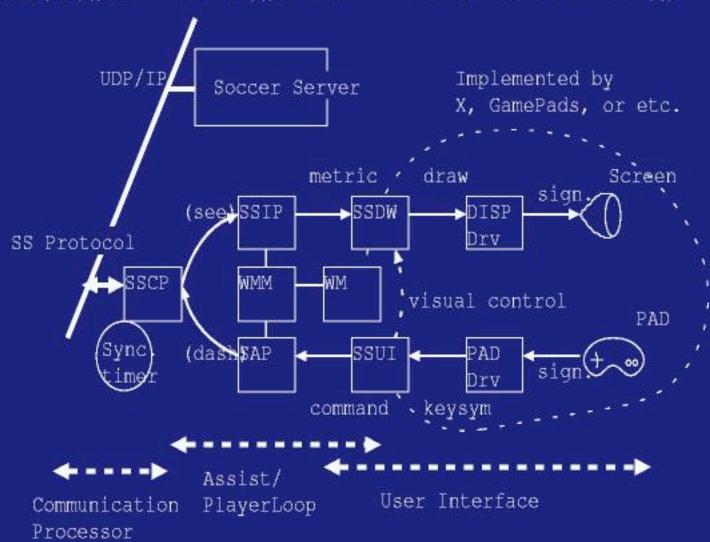
- ■シミュレーション世界への人間の参戦
- ■試合における人間参加の意義
 - ロボットの知性は人間にまさるか?
- ■よりよいユーザインタフェースの提案
 - 人間行動の記録と分析/モデリング
 - 高速反応/協調系でのヒューマンインタフェースの検討
- ■可搬性、耐久性、安価
 - 実験可用性の実現

OZ-RPの概要



概念設計

通信部、アシスト部、ヒューマンインタフェース部



0Zip

- Xウィンドウ/キーボードをインタフェースに利用
- ■チーム Puppets(福井大)ベースの半自動化
- ■目標点移動、ボール追従、キック

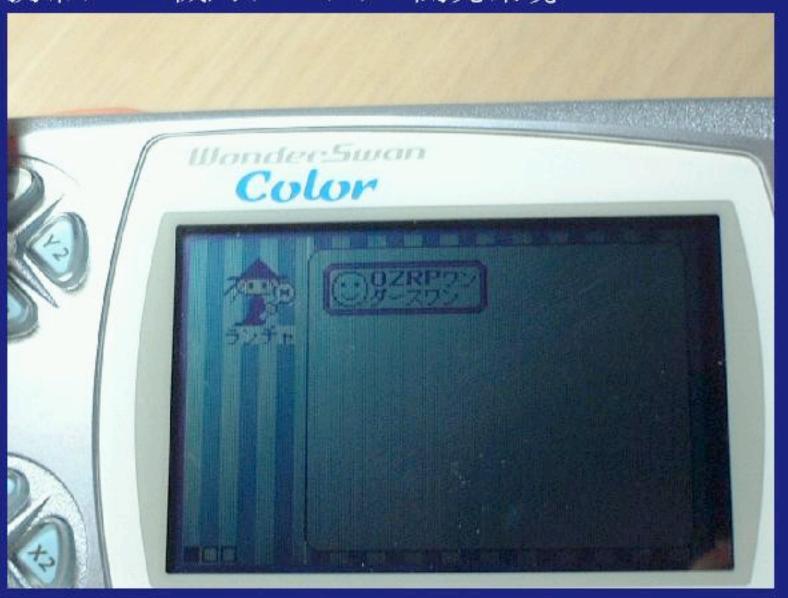


OZRPWWS + OZip

■携帯ゲーム機をインタフェースに利用



携帯ゲーム機向けプログラム開発環境



サッカーインタフェース OZRP画面



OZRPWWS + OZip

■携帯ゲーム機をインタフェースに利用



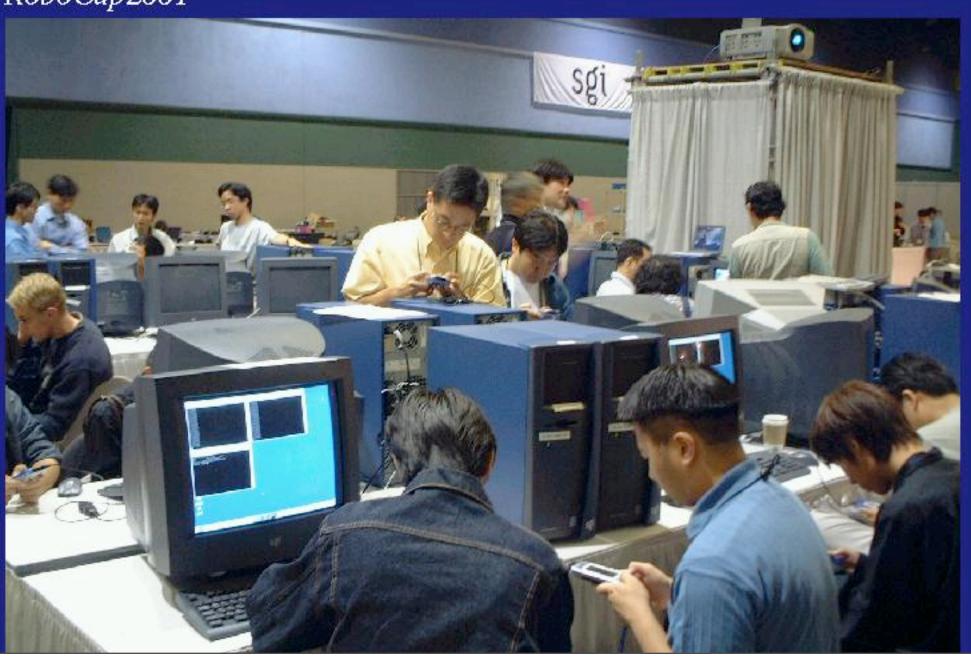


ヨーロッパのひとびと



OZ-RPを使用した試合の様子

RoboCup2001



次世代 OZ-RP システムインタフェース

PDA(携帯情報端末利用)



OZ-RPでの人間の行動実例

ジャパンオープンにおける点数の履歴

| 得失点 | 相手 | 相手の強 | 食 さ |
|------|--------------|-------|------------|
| 0-9 | FC Tripletta | 2位 | |
| 0-5 | 11Monkeys3 | 5位 | |
| 0-1 | Zeng01 | 9位 | ↓強さ順 |
| 1-1 | JINN | 9位 | |
| 13-0 | Nohohon G2 | 予選 | 弱いチームに |
| 26-0 | もんじろ一組 | 予選 | とことん強い |
| * | ↓時間約 | 圣過——— | |
| 0-5 | Harmony | 3位 | |
| 0-5 | RaiC | 9位 | ↓試合時間順 |
| 0-2 | TakAI | 予選 | |
| 0-2 | Gemini | 4位 | 学習効果 |

OZ-RP 2002春季競技会(国内大会)

最終順位:7位/23チーム中

| OZ-RP YourOne | 12-0 | 0 | |
|------------------|------|-----|---|
| OZ-RP OZ | 0-0 | Δ | |
| OZ-RP Zeng | 0-0 | Δ | |
| OZ-RP Hana | 0-0 | Δ | |
| OZ-RP NITSisphus | 13-0 | 0 | |
| OZ-RP YAMAKASA | 1 | 1-0 | 0 |
| OZ-RP YowAI2002 | 0-0 | Δ | |

OZ-RP 使用実績

2001/4 ジャパンオープン01(試合+デモ)

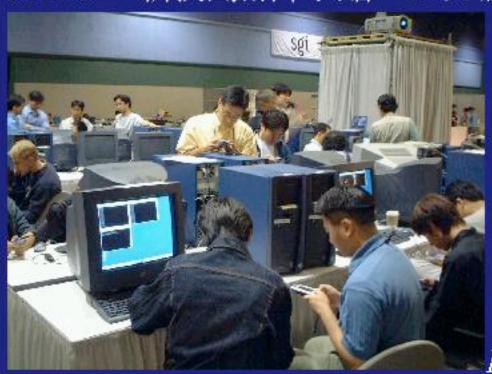
2001/6 ジャーマンオープン(デモ)

2001/8 RoboCup2001シアトル大会(招待デモ)

2001/8 産総研テクノキッズ(デモ)

2002/3 春季競技会(試合:7位/23チーム)

2002/3 新潟自然科学館 ロボット展(デモ)



2005-2008 JapanOpen公式デモ

RoboCup2001







2004年度ジャパンオープン3位入賞

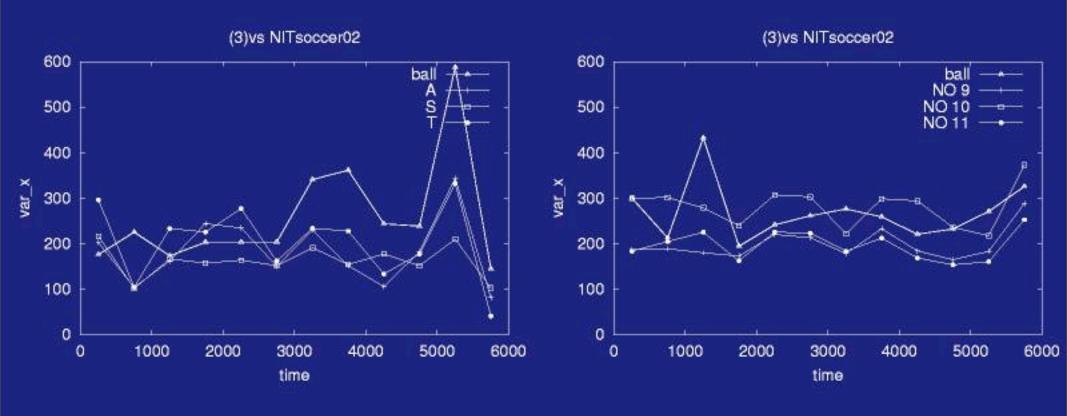


人間がロボットと対戦

運動量の時間変化3

OZRP

HELIOS



まとめ

- ヘテロチーム OZを組織しサッカー対戦実験を行なった
 - 疎な協調関係が有効に機能した

OZ-RPシステムを提案、実装し、公式試合を含め実対戦した

■リアルタイム/協調世界での人間の挙動の観測

OZ-RPのまとめ

OZ-RP

- ■人間の高度な学習能力がみられた
 - ・一試合中でも能力が向上
 - チームプレイ(協調)の習得が速い
- 高度なプレイがみられた
 - スルーパス、
 - 視界外へのチャレンジングなパス

結論

人間の特性

- ■暗示的コミュニケーションの使用
- ■驚異的な速度の協調行動学習

自律的なフォーメーションの発現 運動量の最適化/行動の洗練 相手チームへの高速適応性

短時間で大きな変化

■かつ、繊細に調整されている。

協調状態の分析手法の ozカバリング の有効性を示した

OZ-RPの今後

専門チームの育成

- ■ユーザインタフェースの影響をできるだけ排除
- ■人間の動的判断のモデル化

練習過程の追跡

■人間の動的行動における学習過程の分析

各種応用

- 行動分析と最適指示システム
- 知的インタフェーステストベンチ(リアルタイムシステム)
- ■ネットベース遠隔試合(バリアフリースポーツ)

最後に ロボカップのすすめ

RoboCupの目指すもの

● 知的システム界の F1

- 先端技術のテスト
- 産学連携による開発
- 技術力の宣伝



大会予定

- ジャパンオープン
 - 毎年ゴールデンウィーク
 - 2008は大阪

- RoboCup国際大会
 - ② 2008はオーストリア



メリット

技術の獲得

いろいろやってます 困ったらご相談ください

人材の獲得

良い人材そろってます

まとめ

- **●** RoboCupサッカーとは
- RoboCupで使われるAI技術
- 頑張ると「人間らしい」チームに
- **●** このへんファジィ OZED
- 対人間 OZRP